

平成22年度事業成果報告書（長期優良住宅等推進環境整備事業）

事業分野 住替え・二地域居住を推進するための住宅の再生、流通の促進等を行なうモデル事業	
事業名 二地域居住支援・空き家バンク情報提供事業	事業主体名 越知川田舎暮らし推進協議会

1. 事業のあらまし

(1) 神河町の概要

神河町は、兵庫県のちょうど真ん中にあるハートの形をした町です。町の中央を、播但自動車道路、国道312号線、JR播但線が南北に縦断し、姫路から40分、神戸・阪神から1時間半圏内と都市部からも良好なアクセス環境にあります。

また播磨、但馬地域一帯の医療を担う神崎総合病院や、全町全域をくまなく走るコミュニティバス（一乗車当一律200円）など、安心して暮らせる環境、そして豊かな自然の中で子育て環境に優れた人情味あふれる町です。

(2) 地域課題

高齢化・過疎化が進行し、一人暮らし高齢者世帯は約300世帯あり、年々1割ずつ増加し、これにつれ空き家も増加している。

一方、都市住民の田舎暮らし志向は高まっており、移住用の空き家を求める問い合わせが多くなっている。

そこで地域課題の解決策のひとつとして、都市住民の二地域居住・田舎暮らし支援の取組みを進め、地域への移住・交流を促進することにより、活力の維持・再生を図ろうとしている。

2. 活動内容

(1) 活動の概要

高齢化・過疎化により増加する空き家を「地域の宝」として捉え、都市住民の田舎暮らし志向の高まりと合わせて、移住・交流を推進することにより地域の活性化を図ろうとしている。

(2) 活動内容

a 田舎暮らし推進体制の整備

①越知川田舎暮らし推進協議会の発足

平成21年度、越知川沿い8集落をモデル地区として指定し、8集落の地域代表、地域の大工・左官などの職人の組合、地域の不動産屋さん、金融機関などから構成される当協議会が発足した。この協議会の事務局は行政が担い、協議会も行政と連携しながら田舎暮らし支援の取組みを進めてきた。

②全町的組織への拡大

越知川田舎暮らし推進当協議会の取組みを全町的に拡大するべく、当協議会の中の主要なメンバーに、他集落の田舎暮らし相談員、交流活動に取り組んでいる集落団体の

代表者とともに協議会を拡大・再構築した。

この中ではこれまで越知川沿い8集落での取り組みを全町的に進めるとともに、各集落や各団体で困っていることなどを拾い上げ、各団体相互の取り組みを情報共有・連携させることにより、一体的かつ総合的な情報共有のもと、全町的な移住・交流の取り組みを進めようと検討を進めている。

③開催回数：

平成22年11月～2月 計4回開催

b 田舎暮らし相談員の設置・研修会の開催

町内39集落でそれぞれ田舎暮らし相談員を選任いただき、一定の研修のもと、各集落における空き家・空き土地の調査、行政への情報提供、移住者との相談などの責務を担ってもらっている。町内全集落において田舎暮らし相談員を選任してもらい、当協議会の相談員とともに研修会を開催した。

c 空き家・空き土地情報把握作業

- ① 田舎暮らし相談員から報告のあった、各集落の空き家調査結果について整理。
- ② 民間コンサルタント会社との共同のもと、臨時職員により物件の所有者特定、意向調査把握作業。
- ③ 民間コンサルタント会社により、空き家の調査作業及び空き家の利活用方策について調査・構想策定。

d 空き家・空き土地調査と連動した地域づくり構想の策定

●空き家、空き地を生かした地域づくり構想の提案

<神河町全域に関して> <越知川地域について>

●空き家・空き地土地情報把握作業

- ・ 作業方針の提示
- ・ 資料の収集
- ・ 空き家、空き地データの整理
- ・ 空き家や空き地情報のとりまとめ

e 空き家・空き土地バンクへの情報掲載・メール会員制度の設置

- ① 町の運営するサーバー上へ、空き家・空き土地バンクへの情報掲載
- ② 田舎暮らしメール会員用のホスティングサービス依頼・メルマガ運営（登録者数約200件）

f 空き家見学ツアーの開催

- ① 空き家バンクに掲載する物件のうち5件を見学して回るツアーを企画。都市住民向けにPR・参加者募集。
- ② 参加者数22名（大人21名、小人1名）
- ③ 見学物件5件中1件について商談中。

g 体験施設の設置

- ① 短期滞在施設の設置。3日以上滞在を最低条件とする短期賃貸契約で運営。
- ② 利用者数 8件16名（平成22年度中）

3. 活動効果

(1) 活動効果

空き家見学ツアー(参加者22名)、体験施設の運営(利用者数8件16名)などを開催し、神

河町の田舎暮らしをPRすることにより、空き家バンクの物件13軒が成約(平成 22 年度中)。13世帯34名(平成22年度中。うち町内移動3世帯12名)が移住。

(2) 評価

移住者(週末滞在、半定住、定住全て)も出てきており、地域代表の田舎暮らし相談員からは、地域での受け入れ環境整備や雰囲気づくりが進んでいる、という声もある。また協議会の取組みを全町的に広げる活動も同時に進めており、各地域での理解が深まっている。

4. 今後の課題

(1) 空き家物件の掘り起こし

高齢化・過疎化の進行により、空き家はどんどん増加しつつあるものの「貸してもいい、売ってもいい」という空き家はなかなか出てこない。地域ぐるみの取り組みで、空き家にしないことを基本とするなど物件の掘り起こしを精力的に進めていきたい。

(2) 移住者と地元住民との融合

移住者が実際に出てきており、地元住民からは移住者(都市住民)が近隣に引っ越してくることに対する不安の声が出ているのも現実である。しかしこれは都市と農村だけに限ったことではなく、都市部においても同様であり、むしろ都市部における方が深刻であるかも知れない。このあたりは自然や人情味豊かな地域で暮らすことによる、移住者(都市住民)たち自身の変革効果もあり、さらに移住者により地元住民が刺激を受け変革していく効果といった、地の人(地元住民)と風の人(移住者)との移住交流による地域活性化の効果など、理解を深めてもらうような取組みが求められる。

5. 今後の展開

空き家政策を地域活力に結び付けていくためには、今後は空き家を「地域の宝」として地域活動・交流活動を広げる核として位置づけ、そしてこうした活動に内外からの力を取り込んでいくような展開を進めたい。

■ 団体概要・担当者名			
団体設立時期		平成 2 1 年 3 月	
代表者名		前 川 光 義	
連絡先担当者名		真 弓 憲 吾	
連絡先	住所	〒679-3116	兵庫県神崎郡神河町寺前6 4
	電話	0790-34-0185	
ホームページ		http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/live/	